

タイの中高併設校(Seekan 校)で授業をして感じたこと ①

井戸 仁 (本学教職研究科准教授 学校心理学、理科教育学)

1. はじめに

今年の夏(2025年8月31日から約1週間)タイ・バンコク(ドンムアン空港近くにある)Seekan 校という中高併設の公立学校へ行き、理科実験の授業を行ってきました。その時に感じた日本との違いや、現地の先生にインタビューしたことについて、今回のコラムを書いてみたいと思います。

2. Seekan 校での授業

授業を行ったのは中学校の2学年(1年生の1クラス、2年生の1クラス)で、理科の授業時間をお借りして行いました。高校では3年生の1クラスを日本語の授業時間をお借りして行いました。

内容は「水」をテーマに『浮沈子』をはじめ様々な「水」に関する関心や意欲を高めさせるための「面白実験」中心に授業を行って見たのです。なぜ、そのようなテーマにしたかという、タイ教育省がバンコクのすべての学校に「水」や「水害」に関する教材等を配布しているということを今年の夏にバンコクの小中学校を訪問した際に知ったからです。

今年の夏、本学の田中博准教授と一緒に、立命館中高と共同研究等を行っているチットラダ宮殿内にある王立学校 Chitralada School(幼稚園、小学校、中学校、高等学校が併設)や Kamnoetvidya Science Academy (KVIS 高校)等を視察訪問したのです。そのレベルの高さと子どもたちの意欲に満ち溢れた姿、先生方のとても熱心な指導にとても感銘を受けました。ただ、いわゆる一般的な公立の小学校や中学校の授業を参観させていただいたとき、日本の一般的な学校との違いを感じたことが、今回の訪問になったのです。

なぜ、Seekan 校を訪問し、授業をやることになったのかということに対して疑問に思う方もおられると思いますが、紙面の都合上今回は割愛しますが、訪問した Seekan 校は、生徒数は中高合わせて約2200名のタイでは一般的な公立中高併設校ということでした。

3. 学校見学と授業参観

4日にわたり授業を参観させていただき、先生方にインタビューしたことから感じたのは、授業は教師主導の一斉授業で暗記中心の授業スタイルであること。評価は試験重視で序列意識が強く、形成的評価等は考えていないということでした。あれ?そうなのかな?と、今年の夏に訪問した Chitralada School や Kamnoetvidya Science Academy とはかなり違った印象を持ちました。学校間格差が大きいんだろなあ、という印象です。

(1) 朝の会(朝礼)

今年訪問した学校は、朝から見えていないので、比較はできませんが、インタビューによると、朝の朝礼はこの公立学校でも同じようにあるということでした。Seekan 校では、子どもたちは朝登校して、雨よけの高い天井がある野外体育館のようなところに2200人がクラスごとに座り、全校での朝の会が開かれます。毎回ブラスバンドが演奏し、国歌斉唱(国旗掲揚)、校歌斉唱がおこなわれます。そして、当番の先生からの講話があり、それが終わったら1限の授業が始まります。その朝の会に遅刻してきた子どもたちは、ハンドマイクを持って指示をしているスキンヘッドの強面の生徒指導担当の先生が4~50人の生徒を留め置っていました。するとどうでしょうか、生徒がスクワットジャンプや腕立て伏せを شدましたのです。いわゆるペナルティなのだそうです。正直驚きました。なんか昔の風景を見たように感じました。この強面の先生は元僧侶なのだそうです。タイの教育と日本の教育を考えると文化、制度、宗教観や教育観などの違いにより、教育方法や学習科学の側面で違いがはっきり表れています。

おっと、こんなことを書いていたら、紙面が無くなってしまいました。続きは次号でお伝えすることにしますね。